

* スモモヒメシנקイの発生園は、4月下旬にナシヒメコン(10a 当り100本)を設置する。尚、太陽(含む)以降の品種では7月上旬に再度設置する。

散布日	散布時期	散布薬剤(水 100ℓ当り)		収穫前 使用時期	使用回数 (以内)	散布量 (ℓ)	対象病害虫 (発生病害虫)	注 意 事 項
月 日	3月中下旬 (発芽前)	① 展着剤 石灰硫黄合剤	(水 90ℓ) 10mℓ 10ℓ	発芽前	—	300	(ふくろみ病) (胴枯病) カイガラムシ類	①石灰硫黄合剤に代えて、トレノックスフロアブル 500 倍(収穫 14 日前、3回)を散布してもよい。また、ふくろみ病多発園は、発芽 3～5 日後にトレノックスフロアブル 500 倍(収穫 14 日前、3回)を散布する。 ②トレノックスフロアブル 500 倍を使用する場合展着剤はアビオン－Eの 1000 倍か K.Kステッカー－3000 倍を使用する。尚、K.Kステッカーは必ず最後に調合する。 ③石灰硫黄合剤は隣接するハウスビニールに飛散しないようにする。
月 日	開花始め (1～2輪咲き)	②(固着剤) ICボルドー412		—	—	350	黒斑病 かいよう病	①展葉後の散布は薬害が著しいので、時期を厳守し他作物への飛散はしない。 ②黒斑病、かいよう病発生園の展着剤は、アビオン－E1000 倍かK.Kステッカー 3000 倍を使用する。尚、K.Kステッカーは必ず最後に調合する。
月 日	落花後	③展着剤 オーシャインフロアブル マイコシールド	10mℓ 33mℓ 50g	前日 21日前	3回 3回	400	灰星病 黒斑病 かいよう病	①シンクイムシ類・(ハマキムシ類)の発生がある場合はフェニックスフロアブル 4000 倍(前日、2回)を加用散布する。 ②アグレプト水和剤、マイシン水和剤、アグリマイシン-100 の剤はぶどうにかかると種無し果を生じるので隣接園は掛からないようにする。
月 日	5月上旬	④展着剤 ウララ DF アグレプト水和剤	10mℓ 50g 100g	7日前 30日前	2回 2回	400	アブラムシ類 黒斑病 かいよう病	③マイシン水和剤、アグリマイシン-100、アグレプト水和剤は同系統の薬剤であるため総使用回数は2回以内とする。
月 日	5月中旬	⑤展着剤 テルスターフロアブル モスピラン顆粒水溶剤 アグレプト水和剤	10mℓ 33mℓ 25g 100g	前日 前日 30日前	2回 3回 2回	400	アブラムシ類 シンクイムシ類 黒斑病(かいよう病)	④テルスターフロアブルに代えてスカウトフロアブル 2000 倍(前日、3回)でもよい ⑤降雨が多い場合はロブラール水和剤 1000 倍(前日、3回)を加用散布する。 ⑥この時期の農薬散布は、葉・果実とも軟弱であり、(時間帯・薬液量等)十分注意する。(薬害の発生)
月 日	5月下旬	⑥展着剤 バイスロイドEW バリアード顆粒水和剤 マイコシールド	10mℓ 33mℓ 25g 50g	14日前 前日 21日前	2回 2回 3回	500	アブラムシ類 シンクイムシ類 モモノゴマダラノメイガ 黒斑病、かいよう病	⑦摘果果実は、腐敗病、シンクイムシ類の伝染源になりやすいため、園外へ除去。 ⑧ウメシロカイガラムシ対策としてコルト顆粒水和剤 2000 倍(前日、3回)を散布してもよい。(5月下旬以降)
* 特別散布: カイガラムシ類幼虫の発生園はアブロードフロアブル1000倍(14日前、2回)を散布する。								
月 日	6月上旬	⑦展着剤 イカズチWDG ダーズバン DF マイコシールド	10mℓ 66g 33g 50g	前日 14日前 21日前	2回 2回 3回	500	シンクイムシ類 ウメシロカイガラムシ 黒斑病(かいよう病)	①カメムシ類(シンクイムシ類)の発生がある場合、アルバリン顆粒水溶剤 2000 倍(前日、3回)を散布する。 ②大石早生は、マイコシールド 2000 倍を使用しなくてもよい。
月 日	6月中下旬	⑧(大石早生など最終防除) 展着剤 フルーツセイバー サムコルフロアブル10	10mℓ 66mℓ 40mℓ	前日 3日前	3回 3回	500	灰星病(すす点病) シンクイムシ類 (ハマキムシ類)	①秋姫・紅りょうぜん・菅野中生などで黒斑病(かいよう病)の発生がある場合は、バリダシン液剤 5 の 500 倍(14 日前、4回)又はスターナ水和剤 1000 倍(7日前、3回)を散布する ②フルーツセイバーに代えてナリアWDG2000 倍(7日前、2回)でもよい ③(シンクイムシ類)カメムシ類が発生する場合は、ダントツ水溶剤 2000 倍(3 日前、3回)を加用散布する。
月 日	7月上旬	⑨ (展着剤、まくぴか) ベルクートフロアブル アーデントフロアブル バリアード顆粒水和剤	50mℓ 50mℓ 25g	3日前 前日 前日	3回 3回 2回	500	灰星病(すす点病) ハダニ類 シンクイムシ類 モモノゴマダラノメイガ	①アーデントフロアブルに代えてアーデント水和剤 1000 倍(前日、3回)でもよい。 ②今回からの展着剤は、シリコン系展着剤まくぴか 5000 倍を以降、使用してもよい。(湿展性改善)、花粉溶脱、果実汚染防止。 ③秋姫・紅りょうぜん・菅野中生など黒斑病(かいよう病)の発生がある場合はバリダシン液剤 5 の 500 倍(14 日前、4回)又はスターナ水和剤 1000 倍(7 日前、3回)を散布する。
月 日	7月中旬	⑩(ソルダムなど最終防除) (まくぴか) イカズチ WDG フェニックスフロアブル	66g 25mℓ	前日 前日	2回 2回	500	シンクイムシ類 ケムシ類 ハマキムシ類	①ハダニ類の発生がある場合はダニゲッターフロアブル 2000 倍(前日、1 回)を散布する。 ダニゲッターフロアブルは、開花期の水稻に飛散すると不稔等の薬害を生じる場合があるので、飛散しないようにする。 ②秋姫などで黒斑病(かいよう病)の発生がある場合はバリダシン液剤 5 の 500 倍(14 日前、4回)又はスターナ水和剤 1000 倍(7 日前、3回)を散布する。
月 日	7月下旬	⑪(貴陽など最終防除) (まくぴか) オンリーワンフロアブル サムコルフロアブル10	50mℓ 40mℓ	前日 3日前	3回 3回	500	灰星病 シンクイムシ類 (ハマキムシ類)	①秋姫など晩生種で黒斑病(かいよう病)の発生がある場合はバリダシン液剤 5 の 500 倍(14 日前、4回)を散布する。 ②(シンクイムシ類)が発生する場合は、アルバリン顆粒水溶剤 2000 倍(前日、3回)を散布する。
* 太陽・秋姫他晩生種:アブラムシ類(シンクイムシ類特別散布)・バイスロイドEW3000倍(14日前、2回)を散布する。								
月 日	8月上中旬	⑫ (太陽など最終防除) (まくぴか) フrintフロアブル25 テルスターフロアブル モスピラン顆粒水溶剤	50mℓ 33mℓ 50g	前日 前日 前日	2回 2回 3回	500	灰星病(すす点病) シンクイムシ類 アブラムシ類 カイガラムシ類	①フrintフロアブル25に代えてナリアWDG2000 倍(7日前、2回)でもよい ②シンクイムシ類が多発する場合ディアナ WDG5000 倍(前日、2回)を散布する。
月 日	8月下旬	⑬(秋姫など最終防除) (まくぴか) オーシャインフロアブル アーデントフロアブル	33mℓ 50mℓ	前日 前日	3回 3回	500	灰星病 ハダニ類 (シンクイムシ類)	①オーシャインフロアブルに代えてベルクートフロアブル 2000 倍(3日前、3回)でもよい。 ②アーデントフロアブル代えてアーデント水和剤 1000 倍(前日、3回)でもよい。
* 秋姫他晩生種特別散布:9月上中旬 ・フrintフロアブル2000倍(前日、2回)とダントツ水溶剤2000倍(3 日前、3 回)を散布する。								
月 日	収穫後 3～4回 の防除	⑭ (展着剤) ICボルドー412 他作物に飛散しないようにする。	3.3kg	—	—	400	黒斑病 かいよう病	・展着剤はアビオン－E1000 倍かK.Kステッカー－3000 倍を使用する。 尚、K.Kステッカーは必ず最後に調合する。(収穫終了後)*カイガラムシ類の発生園は、スブラサイド乳剤 40・1500 倍(14 日前、2回)を散布する。 【落葉後～萌芽前までの防除】 ①コスカシバの防除はガットキラー乳剤 100 倍(休眠期、1回)を樹幹部及び主枝に散布する。 ②カイガラムシ類の発生がある場合は、スプレーオイル 30 倍(発芽前)を落葉後以降、単用散布する。